

No.21  
2024秋・  
2025冬号

NPO 法人みんなのプロジェクト季刊誌

# はたけだより

ひととひとがつながり、思いやりをはぐくむ共助社会づくり

はたけの家  
から

とっておきの1枚



▲ 11月キャンプより【今宿野外活動センター】

21号  
目次

column

出会う・つながる・学び合う

support

サポーター会員募集

event

キャンプ・報告  
カフェのご案内  
学習会・報告



## 出会 う つながる 学び合 う

column



「こもんのいえ」

というパラダイム

水野 英尚

子どもの頃に流行った遊びといえ  
ば、「缶蹴り」(空き缶を鬼が守りが  
らするカクレンボ)や「ドロジュン」  
(泥棒と巡査という意味で、2チーム  
の鬼ごっこ※地域で呼び名が違う)と  
いう遊びで、日が暮れるまで公園や  
地域の空き地で遊んでいました。そ  
うした場所は、私たち子どもにとっ  
て「誰の持ち物ではない場所」(現  
実、公園は地域行政が空き地は土地  
の所有者が管理してるわけですが)で  
あり、いつでも誰でも自由に利用が  
出来る空間でありました。私たちは  
その空間を利用しながら、年齢が違  
う中での上下関係、他のグループと  
のテリトリー、それを自然と学んで  
いたように思います。次第に独自の  
ルールが生まれ、私たちはそうした  
ルールを守ることを学びました。

それは、教室の中で定められたル  
ールに従い、学ぶ「学校」とは違  
い、自らの体験(時には上級生から殴  
られたり)を通して、家や家族という  
保護された空間から離れ、生まれて  
初めての「社会」を経験していたよ

うに思います。それが、私の子供時  
代(いわゆる「シヨウウツ的」)における  
「社会」の学び方でありましたが、  
現代を生きる子どもたちの「社会」  
の学び方は、どのようなものである  
のでしょうか。

私が「重症心身障害児者」と呼ば  
れる人たちに出会い、関わるようにな  
って30年以上が経ちましたが、  
彼(女)たちがどのようにして「社会」  
を学び、関係性をつくり出していけ  
るのか、それは私の大きなテーマで  
す。「障害」の重さ故に、言葉を発し  
て表現したり、自らの足で立ち行動  
に移すということが、極めて困難な  
状態の彼(女)たちが生きて生活をして  
いくためには、周囲の人たち(家族・  
支援者)のサポートが無ければ成り立  
ちません。

ですから、彼(女)たちの暮らしに大  
切なのは、そうした周囲の人たちと  
一緒に学び、共に体験しながら生活  
できる、「空間」が必要ではないでし  
ょうか。

今年の4月より、NPO法人みん  
なのプロジェクトでは「こもんのい  
え」という空間を、提供したいと考  
えています。「こもんのいえ」の居室

を借り、共有スペース(居間・台所・  
彼(女)たちにとって、家族を離れての  
生活がどのようなものなのか、おそ  
らく生まれて初めての経験であるこ  
とでしょう。

きっとそうした生活体験が、共に  
「社会」を学ぶ場所になると思いま  
す。現在の暮らしの選択肢の在り方  
は、彼(女)たちとその家族、そして支  
援者たち、それぞれが大切にしてい  
たもの、それらがはぎ取られる印象  
を受ける暮らし方です。

しかし、それまで人生を共に築い  
てきた関係性を、この「こもんのい  
え」という空間によって再編してい  
き、そこで新たに作られる「パラ  
ダイム」(枠組み)をもって、本来ある  
べき、一人ひとりが希望する暮らし  
方(一人暮らし、シェアハウス、グル  
ープホーム、入所施設等々)へ、おの  
ずと移行していくことが可能とな  
る。これが私たちの考える「こもん  
のいえ」というパラダイムです。

これを「理想」として終わらせな  
いために、どうかこの私たちの運動  
へご協力とご支援をお願いします。

event

# 【報告】1泊2日のキャンプを実施！



秋も深まる10月23日～30日に西区今宿野外活動センターで、1泊2日のキャンプを行いました。気持ちよかったあ！



## 「こもんのいえ」にカフェがあります！

キッチンでアンジーとスタッフは待っています。  
aburayamaの畑で育つ四季の野菜の彩り・果実の  
香りをメインに盛ったひと皿と珈琲を味わい、笑顔  
をシェアして過ごしましょう♡



毎月  
第2・4水曜  
500円ランチ  
開催中です！



support



## サポーター会員募集中!!

### ◎ ご寄付をいただきました！

堀川 久美 様  
和田 淳 様  
古田 光子 様  
あゆみの会 様 (宗像市)  
中村 知子 様  
吉村 正信 様  
小川 達也 様  
福井 幸恵 様

中尾 えがお 様  
西嶋 友美 様  
野口 幸弘 様  
下釜 浩平 様  
福田 多美枝 様  
内田 善雄 様  
木下 康子 様  
江口 陽子 様

野田 景子 様  
藤田 直子 様  
石本 貫敏 様  
田代 美香 様  
小松 隆一 様  
篠崎 信子 様  
福岡バタニヤ村教会 様  
林 菜保子 様

森田 トモコ 様  
SHALOM 様  
山下 幸子 様 (淑徳大学)  
河村 富子 様  
小森 大樹 様  
奥田 篤行 様  
米村 明美 様  
大石 和可子 様  
原田 賢 様

【振込み先】  
ゆうちょ銀行 店名：七四八  
記号：17440  
口座番号：89850401  
口座名義：トクビ) ミンナプロジェクト



開催報告 地域で暮らし続ける学習会(3回連続)

# ともに育てるすまい方

-Commom という選択-

半年に渡って、3回の学習会を開催し、オンラインを含め、延べ100名の方々が参加されました。県外の当事者ご家族や事業者の方からも熱心な質問とディスカッションがあり、重い障がいがある人の「暮らし」を提供する施設、支援体制等が圧倒的に不足する現実、全国的な課題であり、多くの仲間がいることを実感しました。親御さんの高齢化によって、家族介護が厳しくなること、その先のことに対する不安を抱えた参加者のお話は切実でした。

3回目の学習会では、実家を離れ、訪問医療、訪問介護の支援を受けて生活する暮らし方を紹介し、工事が終わり、生まれ変わったこもんのいえを内覧していただきました。ヘルパーの人材不足や、そのような暮らしに対する不安の声もありましたが、親元を離れ、在宅支援を受けながら、自立生活する体験を通して、馴染みの人たちと織りなす地域暮らしの楽しさを味わい、自信を持てるようになるイメージを共有していただけたか、と思います。

重い障がいがあっても、自立して生活できる社会にしていきたい。それは、年を取り、病や障がいを負っていずれ亡くなる、私たちひとりひとりに通じる願いではないかとも思います。これからも多くの人と共に、さらなる実践を通して、よりよい社会作りに挑んでいきます。皆様のご理解ご協力をよろしくお願いします。(水野 睦)



▲第3回は、総括を含めた話題提供でした



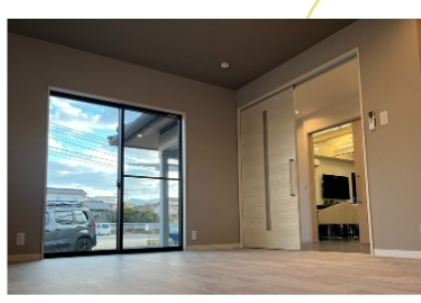
▲対面での参加も多かったですね



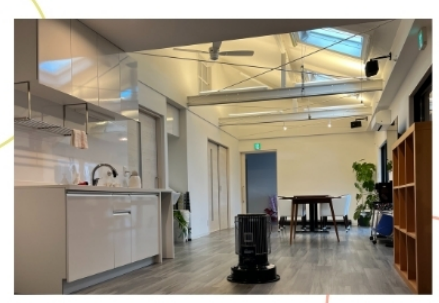
▲完成した第2のはたけの家(仮)の外観



▲テラス・デッキ部分



▲入居スペース



▲共有スペース+キッチン

NPO法人みんなのプロジェクト季刊誌

# はたけだより

NO.21

2024秋・2025冬号

ひとつひとつがつながり、思いやりをはぐくむ共助社会づくり



◎発行 2025年2月 ◎発行元 NPO法人みんなのプロジェクト

〒814-0172 福岡市早良区梅林6-23-3 TEL:092-874-3051 FAX:092-874-3052

◎公式サイト <https://minnanoproject.org/> ◎メール: [hatakenoie2020@gmail.com](mailto:hatakenoie2020@gmail.com)